

## 東海経済レポート（2013年11月）

～新興国経済の低迷による輸出下押し圧力と、家計所得の動向などが焦点に～

経済調査室（名古屋）

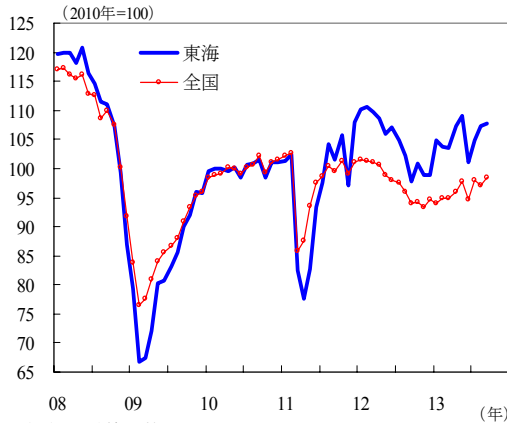
### 1. 足元の経済情勢

- ✓ 生産は、9月は前月比+0.4%と3ヶ月連続で増加。輸送機械と生産用機械、金属製品が牽引。
- ✓ 輸出（金額、円ベース）は、9月に前月比▲3.7%と2ヶ月ぶりに減少。新興国経済の減速長期化が下押しした。
- ✓ 設備投資については、その先行指標である金属工作機械の国内受注額が、9月は前年比+48.1%と2ヶ月連続で増加。
- ✓ 雇用では、9月の愛知県の有効求人倍率が1.38倍と2008年9月以来の水準にまで上昇。他県でも同様に上昇。
- ✓ 個人消費では、9月の新車販売台数が前年比+22.1%と、5ヶ月ぶりにプラスへ転じた。同月のスーパー・コンビニ等小売主要3業態の販売は前年比+4.2%と、7ヶ月連続でプラス。住宅着工は、9月も年率換算で約9.6万戸と、高水準で推移。

### 2. 当面の注目点・リスク要因

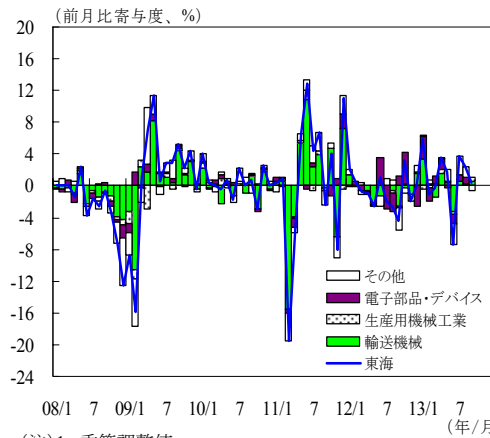
- ✓ 中国および欧州経済に底打ち感が広がる中、米10月雇用統計が予想以上に堅調だったこともあり、新興国も含めて世界的に株価の持ち直し、上昇が続いている。
- ✓ 但し、多くの新興国では、循環的・構造的な理由からこれまでのような高成長が維持できなくなっており、世界経済全体として力強い回復は期待しづらい情勢。また、米国では財政問題と金融緩和の出口戦略、日本では消費増税といったリスクイベントが控えており、不透明感の払拭は容易ではない。
- ✓ このような環境下、東海経済にとっての当面の注目点は、①新興国経済の低迷長期化による輸出への悪影響、②今冬賞与以降の賃上げ動向、③本邦成長戦略および財政再建の具体的前進、の3点と考える。

**生産①** 9月の鉱工業生産指数は前月比+0.4%と、3ヶ月連続で増加。



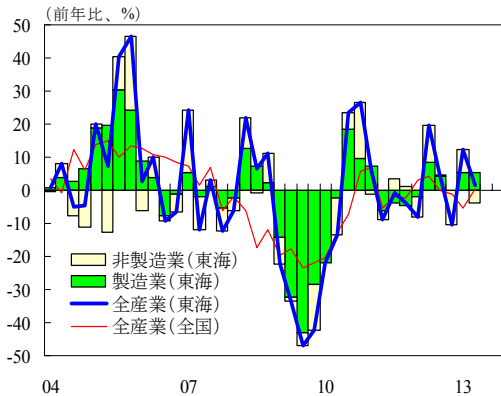
(注) 1. 季節調整値  
2. 東海は愛知・岐阜・三重の3県  
3. 基準年は、全国は2010年、東海は2005年  
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**生産②** 業種別では、輸送機械と生産用機械、金属製品の寄与が大きかった。



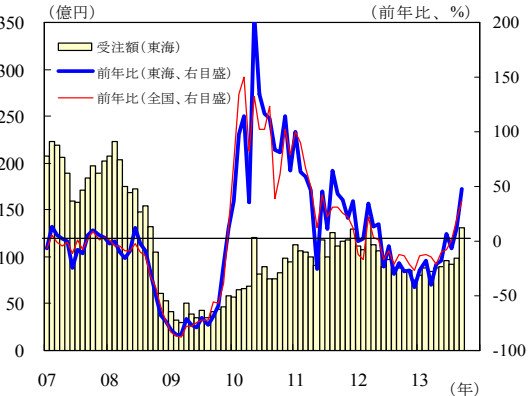
(注) 1. 季節調整値  
2. 東海は愛知・岐阜・三重の3県  
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**設備投資** 4-6月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比+1.4%と、前期の高い伸びからは減速。



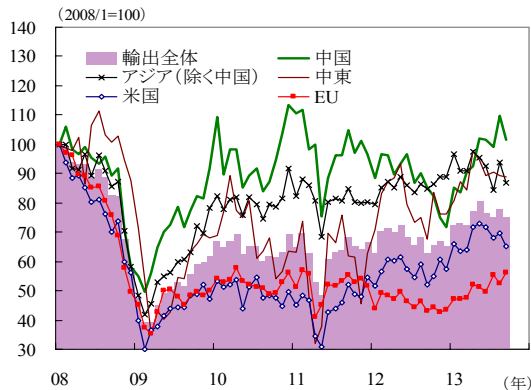
(注) 1. 東海は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県  
2. 資本金10億円以上の企業を対象  
(資料) 東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**金属工作機械受注(国内)** 設備投資の先行指標である金属工作機械の国内受注額は、9月は前年比+48.1%と2ヶ月連続で増加。



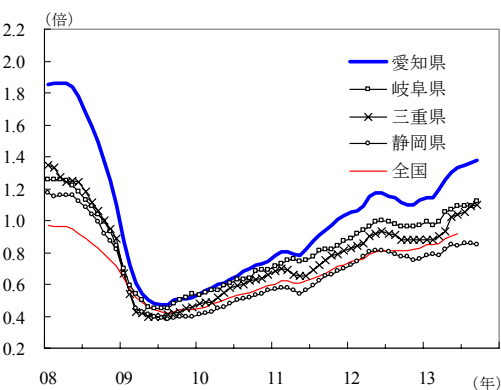
(注) 1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社  
2. 受注額は当室による季節調整値  
(資料) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**輸出** 9月の輸出額(円ベース)は、前月比▲3.7%と2ヶ月ぶりに減少。新興国経済の減速長期化が下押しした。



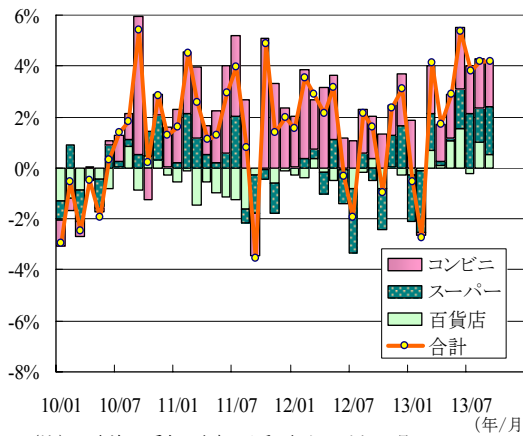
(注) 当室による季節調整値  
(資料) 財務省「貿易統計」、名古屋税関「管内貿易概況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**雇用** 9月の愛知県の有効求人倍率は1.38倍と、2008年9月以来の水準にまで上昇。他県でも同様に上昇。



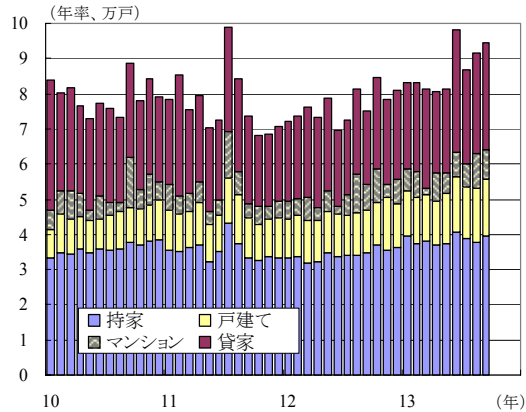
(注) 1. 有効求人倍率=有効求人数/有効求職者数  
2. 季節調整値  
(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」より  
三菱東京UFJ銀行 経済調査室作成

**個人消費** 9月の小売主要3業態の販売は前年比+4.2%と、7ヶ月連続でプラス。



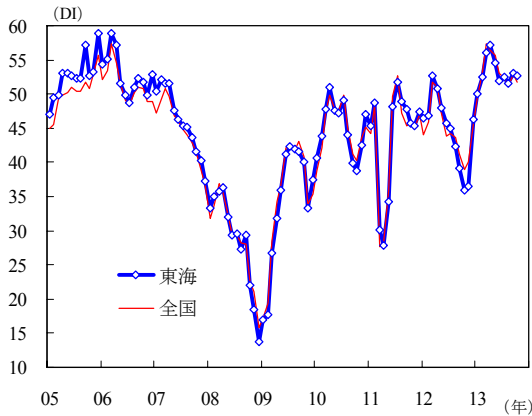
(注)1. 東海は愛知・岐阜・三重・富山・石川の5県  
2. 当室による季節調整値  
(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**住宅投資** 9月の住宅着工戸数は、年率換算で約9.6万戸と、高水準で推移。



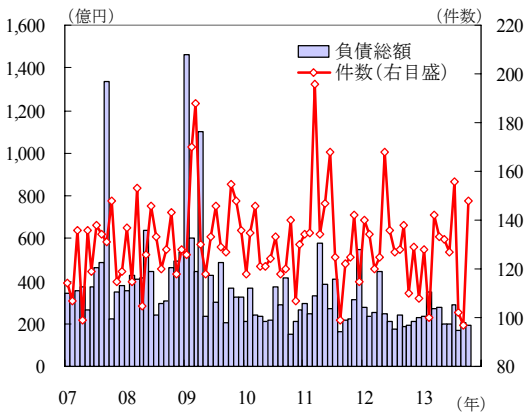
(注) 東海は愛知・岐阜・三重の3県  
(資料) 国土交通省「建築着工統計」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**景気ウォッチャー調査** 10月の景気現状判断DIは+52.6と、ほぼ横ばい。



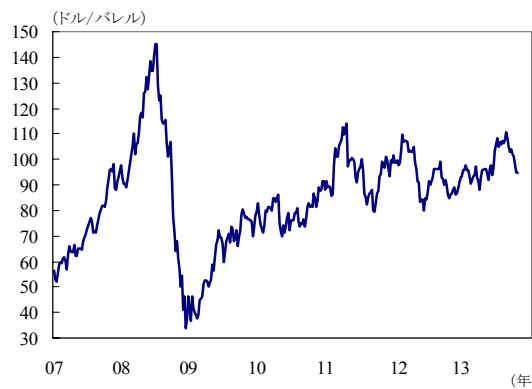
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**倒産件数** 10月の企業倒産件数は148件と増加(前年比で+34.5%)。負債総額も同+1.5%と増加。



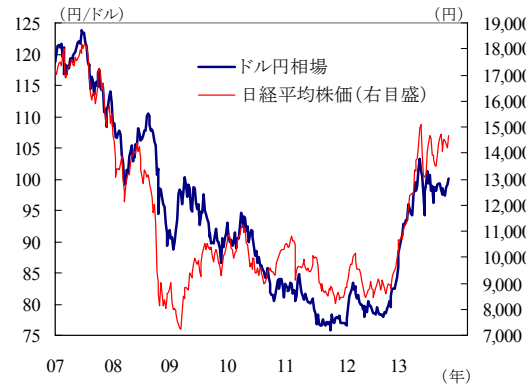
(注) 愛知・岐阜・三重・静岡・長野の5県  
(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」より  
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**原油価格** シリア等中近東・北アフリカ情勢が落ち着いていること、また米国シェールオイルの増産などを背景に、90ドル前半まで下落。



(注) 原油価格はWTI先物  
(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

**円相場・株価** 株価は、米国10月雇用統計が予想を大きく上回ったことから米景気への警戒感が後退し、15,100円台まで上昇。円相場は、株高を背景に、一時100円台まで下落。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H25.11.20 富田 潤 jiyun\_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。